

平成20年6月12日

各 位

会 社 名 日本ジャンボ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 村松 潔  
( J A S D A Q コード 9 6 7 7 )  
問合せ先 常務取締役管理本部長  
氏 名 高 橋 理  
電話番号 0 4 6 5 - 6 0 - 2 5 0 0

営業外費用及び特別損失の発生並びに  
平成20年9月期中間期 業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ

平成20年9月期中間期（平成19年10月1日～平成20年3月31日）の業績予想について、平成19年11月26日の決算発表時に公表いたしました中間期業績予想を下記のとおり修正いたします。

なお、営業外費用及び特別損失が発生しましたので合わせてお知らせいたします。

記

1. 個別における営業外費用の発生及びその内容について

平成20年9月期中間期におきまして、過年度より資金運用を実施しておりました複合金融商品（他社株転換社債及び株価指数連動債等）の時価の下落に伴い、有価証券運用損122百万円及び投資有価証券運用損239百万円をそれぞれ営業外費用として計上することといたしました。

2. 特別損失の計上及びその内容

(1) 個別における投資有価証券評価損の計上について

平成20年9月期中間期において投資有価証券の時価評価を行ったところ、時価が著しく下落したものであるいは実質価格が著しく下落したものについてその回復が認められないものに関しては、減損処理による投資有価証券評価損として60百万円を特別損失に計上することといたしました。

(2) 連結子会社における役員退職慰労引当金の計上について

「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 平成19年4月 監査・保証実務委員会報告第42号）の公表を契機に、役員退職慰労金の設定が会計慣行として定着しつつあることを踏まえて、従来、支給時に費用として処理していた役員退職慰労金を役員退職慰労引当金として計上することとし、過年度発生額83百万円を特別損失に計上することといたしました。

2. 平成20年9月期中間期（平成19年10月1日から平成20年3月31日）の業績予想数値の修正

(1) 中間(連結)業績予想 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	11,052	1,267	1,293	646
今回修正(B)	11,380	1,452	1,137	441
増減額(B-A)	328	185	156	204
増減率(%)	3.0%	14.6%	12.1%	31.7%
(ご参考) 前期実績(平成19年9月中間期)	14,375	2,952	2,895	1,048

(2) 中間(個別)業績予想 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,134	288	531	265
今回修正(B)	4,313	285	239	95
増減額(B-A)	178	2	291	170
増減率(%)	4.3%	0.7%	54.9%	64.1%
(ご参考) 前期実績(平成19年9月中間期)	7,124	1,730	1,954	722

3. 平成20年9月期中間期、業績予想の修正理由

【個別業績予想の修正理由】

個別における当中間期での売上高、営業利益に関しては概ね予想通りとなりますが、経常利益につきましては、原油価格の高騰やサブプライムローン問題に端を発した株式相場の下落による影響もあり、上記1による営業外費用が発生した影響から、経常利益に関しまして291百万円の修正となりました。また、当期純利益に関しましても上記2-(1)等による特別損失の影響もあり170百万円の修正となりました。

【連結業績予想の修正理由】

連結業績予想の修正理由に関しまして、売上高に関しましては概ね予想通りとなる見込みですが、営業利益に関しましては子会社における業績が好調だったこともあり185百万円の修正となりました。経常利益に関しましては、個別による影響を加味したところ、156百万円の修正となりました。

当期純利益につきましては、個別による特別損失の影響を加味したこと、連結子会社にて役員退職慰労引当金の過年度発生額、上記1-(2)等を特別損失として計上した影響から213百万円の修正となりました。

なお、通期の業績予想並びに配当予想につきましては、前回(平成19年11月26日)発表の内容から変更はございません。

以上

(業績等の予想に関する注意事項)

上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって、上記予想値と異なる場合があります。